

阿波まちなみ連

<http://www.nmt.ne.jp/~sikai/>

建築士9月号附録 昭和28年2月23日第3種郵便物認可 毎月1回発行 発行/社団法人 徳島県建築士会 TEL088-653-7570 FAX088-624-1710

●とびっくす●

「まちなみ連」の三味線ひき

まちなみ研究会 廣田 和正

今年もまた熱波の季節が駆け抜けて行きました。四日間で140万人もの人が集い、狂乱と喧騒の渦まく阿波踊り。我が「まちなみ連」も70名以上の参加でおおいに盛り上がりました。衣装を着けると女踊りはよりあでやかに男踊りはよりいなせになり、子供たちもみんな嬉々としています。建設センターでの練習のあとすぐに街に繰り出しました。銀座商店街を皮切りに「新鮮なとく号」前で体をほぐし、いよいよ市役所前演舞場にはいります。両側の桟敷席からの声援を受け、全長110メートルの花道を進みます。まるで自分が主役になったようで気分は最高。出口付近ではテンポをあげ乱舞です。最後は幸町演舞場「おどりロード」で踊り納めました。私の担当は三味線。去年はもうひとりおられたのに、今年はひとりだけ。他の鳴り物に負けられないように力いっぱい弾きました。

高松に住む私がなぜ阿波踊りに夢中になったのか、少し説明が必要です。父の他界で故郷四国での勤務を希望し、設計部から営業畑に移りました。7年前に徳島に転勤しましたがどうしても営業の仕事になじめない。そんな時「まちなみ研究会」を知り、最初に建築士会の事務所を訪ねたのは2004年1月のこと。メンバーの方々は温かく迎えてくれました。やがて例会に出席するようになり、阿波学会の民家調査では、木屋平や東祖谷の山々を駆け巡りました。「まち研」のメンバーに阿波踊りの名手坂口敏司さんがいます。当時、有名連の「ほんま連」

にいた坂口さんからお誘いを受け、思い切って城山公園の練習に参加しました。でもまさか自分が有名連で三味線を弾くとは思わなかった。生まれて初めての演舞場も市役所前でした。その道のりの長いこと。パチが時々ひっかかる。三味線の胴がずり落ちそうになる。隊列を乱して遅れてしまいそうになる。出口にたどり着くまでも観客の顔を見る余裕などない。しかし達成感のある充実した20分間でした。「ほんま連」にできるようになってから三年目、今度は「まちなみ連」からお呼びがかかりました。三味線はどちらの連でも少ないので、下手ながらも貴重な戦力のようなのです。

さて世の中を見渡せば建設不況の波が押し寄せ、景気はいっこうに回復する兆しが見えない大変な時代です。設計業界も私のように昭和40年代に教育を受けたオールドモダニストはそろそろお役ご免。そのころに産声をあげた若い人たちはやれユビキタスだの、やれアルゴリズムだのフラクタルだのと、かまびすしい。コンピュータが使えないロートルは新たな道を探らなくては。そんなこんなもすべて忘れて踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃそんそん。そう、阿波踊りは熱気のただ中に身を置かなきゃ面白くない。日ごろのうっぷんを吹き飛ばし踊りましょう。来年も再来年もこの先ずっと。私もおよばずながら、チャンチャリコ、チャンチャリコと三味線を打ち続けます。



●ほっとにゆーす●

ピンポン・テニスサークル 「LIGHT&SHADOW」始動

徳島支部 高田哲生

去る7月18日（日）17：00～21：00大神子テニスセンターにて練習会が行われました。大人10人、子供3人（槇野さん）の参加です。定期的に練習をやっている人、仕事に追われてなかなか体を動かす機会のない人、何十年ぶりにラケットを握った人、バーベキューの後、合流して汗を流した人などいろいろですがみなさん楽しくプレーしていました。長年使っていなかったラケットのグリップが劣化していて手が真っ黒になっていた人も…。

若いときは、試合に出たりもしていたのですが、30歳の時に頸椎ヘルニアになり走ることができなくなりました。テニスも一生できないかとあきらめていたのですが、体を動かすことと試合などで勝負することの楽しみをまた感じるできるようになったのです。へたくそながらも体を動かし汗をかくことでお腹も少しへこんできたような気がします。

まだまだ残暑は厳しいですが今回のようなナイターでの練習であれば年輩の方もあまり無理せずプレーできるように感じました。今度の練習会は10月3日（日）18：00～21：00の予定です。少し汗をかいてみたいという方はお友達お誘い合わせの上ぜひご参加下さい。

なお、第一回テニス練習会 参加者は以下の方々です。長沢さん、真鍋さん、槇野さん親子、高尾さん、森田さん、喜多さんご夫婦、桜木さん、岩本さん、高田
※ 練習会風景や集合写真を撮るのをすっかり忘れており今回載せることができませんでした。次回は必ず写真付きでご報告致します。

※ ピンポン練習は毎週木曜日19：30～22：00

大松小学校 体育館です。

申し込み先 TEL:088-669-4226（高田）まで



おじん・おばんに何が出来るか？

瀬戸 雅之

先の総会で、建築士会の会長に、舵取り役として佐藤幸好氏が就任し・公益法人制度への対応・地域への公益事業の拡大・建築士会活性化への取り組み、を柱とした新年度がスタートしました。いずれも建築士会にとって喫緊の課題であり、かつ難題ばかりではありますが、会長持ち前の粘り強さと、責任感で、会員の牽引役として、この難局を切り開いていただけるものと期待をしているところです。

しかし、会長に全てお任せでは、我々会員としても心苦しい所もあり、私達団塊世代及びその前後のいわゆるシニア世代で、建築士会の活性化を図るため何かお役に立てないかと、考えているところです。と言いますのも、先日の徳島支部の役員会でN氏が御苦労して作成して頂いた、会員の年齢別グラフを見てみますと、昭和24年前後のいわゆる団塊世代及びその前後の会員数がピークでピラミット状を呈しており、特に若年層の会員が減少の一途にあり、士会の魅力作りの必要性を痛感したところ です。

又一方で会員の減少をくい止める努力も必要となります。前述の通り会員数のピラミットの頂点であるシニア世代が退会していくと、士会の運営すら難しい局面になるのではと危惧しています。

その様なことから、まずは問題意識の共有化を図るため、私と同年代の方々に呼びかけ、士会活性化についての趣旨説明をさせて頂いたところ、8名の方々の共感を頂き、意見交換からの出発と言うことで、現在まで2回の会合を持ち、現状と課題の抽出、情報交換等を行ったところです。

今後シニアパワーで何が出来得るのか未知数ですが、何らかの『型』として出現出来るよう、微力ながら努力したいと考えているところです。ちなみに次の会合は居酒屋で飲み会です（何時になったら『型』が出来る事やら?）



シニア会発足

『初めてふれた文化財』

三好支部 橋本 美保

初めまして。三好支部3年目の、まだまだ見習い中です。先輩建築士Kさんの勧めで、建築士会に入会しました。

2年目の支部総会の資料の中に、「文化財マイスター養成講座」の資料を見つけました。

まだまだ見習い中の私は、なんでも身に付けなければ…と受講することにしました。

最初は「文化財」と聞けば、神社仏閣が頭に浮かび、決して身近に感じるモノではありませんでしたし、ピンとくるものもなく参加していました。でも今回、養成講座の中でいろいろな講演を聞き、実習を行っていくことで、分かったことがあります。それは、自分の住んでいる場所にも、身近に感じる「文化財」があり、それを残していきたいということです。

「登録有形文化財」というものなのですが、「国指定重要文化財」などとは違い、今も生活している家でも、ある一定の条件を満たして、文化庁の審査などをクリアすれば登録され、生活をする上での規制はあまりないというものです。と、文書に書けば簡単そうですが、実際は50年以上前に建てられた建物を維持していくのは大変なことだと思います。

私は、今回2棟の登録文化財に関わることが出来ました。1棟は昔四国一だった郵便局（画像1）で、今は写真館をされています。私もそこで証明写真を撮ってもらったり、中学生の頃は通学路でもあったので毎週目に見ていた建物でした。もう1棟は昔酒蔵（画像2）だったところを今はギャラリーやカフェとして活用されています。毎月初めの週末に開かれるのですが、ここにも何年か前のひな祭り時期に寄せていただいて、なんとも言えない雰囲気味わわせてもらいました。

ただ、お話を聞いていく中で、建物のすばらしさの裏には、家主さんたちの苦労や努力があり、ただ残したいだけでは、難しい現実もあるということも一つの課題なのだと分かりました。

そんな2棟の建物の書類作りを手伝っていて、新しいものの良さを考えていきながら、こうした古いものの良さをもっと考えていかないといけないなあと、漠然とですが思うようになりました。だからといって何をしていけばいいのか…ということまではまだわかりませんが、これからも身近にある「文化財」に関わっていきたいと思っています。

まずは、見習い中の自分をなんとかしなければ…



「阿波学会」に参加して

鳴門支部 黒崎 仁資

みなさん「阿波学会」という組織をご存知でしょうか。昭和29年に発足して以降、半世紀以上に渡り、20を超える異分野の学会が、地域に密着した学術調査を行ってきました。毎年、7月下旬から8月上旬にかけて県内の一市町村に一斉に学術調査に入り、12月上旬には現地で住民の方々と交えて発表会を開催し、その成果を阿波学会紀要（総合学術調査報告書）として出版しています。建築士会としては阿波のまちなみ研究会を通して、建築関係の調査として「社寺班」と「民家班」の2班に分かれて調査に参加しています。

私が初めて阿波学会に参加したのは平成11年の神山町の調査でした。社寺班のNさんから「バーベキューするからおいで」とお肉とビールに誘われてホイホイと参加したのがきっかけでした。神社の「じ」の字も知らなかった私がそれ以来毎年参加するようになり、10年以上が経ちました。その間には班長という大役を任せられ、発表会

から紀要の編集と忙しく過ごした年もありました。今では阿波学会の調査が夏の風物詩となり、調査に入ると「今年も夏が来たな」と感じるようになりました。

阿波学会の調査にはたくさんの思い出があります。地図と住民の方々の話を頼りに、山中の神社を探して1時間以上道無き道を登ったこともありました。辿り着いた神社もありますし、日が暮れて発見できずあきらめた神社もありました。しっかりと維持管理された神社もあれば、人が来なくなって荒れ果てた神社もありました。そして荒廃した神社の境内に立つと、昔は子供たちが遊び、祭りになれば人々が集まり賑やかだった情景が目に浮かんできます。社会環境の変化や過疎化が進み、人々の信仰心も薄れてきた現代社会で、神社やお堂を維持していくことが難しくなっています。だからこそ阿波学会の調査を通して、地域の社寺の現状を把握し、記録していくことがますます重要になってきていると思います。



全国女性建築士連絡協議会（東京大会）

徳島支部 武田 初子

朝夕の涼しい風に今夏のかつてないほどの猛暑・世界的異常気象を思い出します。原因あってのこの結果・・・そこで私に何ができるのだろうか・・・とクーラーの中で地球の未来を憂う夏でした（ダメ?!）

まさしく盛夏7月16日・17日全国女性建築士連絡協議会が開かれました。今回は平成2年5月の初回より数え20周年の記念すべき会として「女性建築士の新たな出発」をテーマに進められました。初回の出席者77名、今回366名・女性1級建築士の割合0.8%から10%にと、20年間で社会の中での認知度も高まりました。また20周年ということもあり、初代・4代目・現女性委員長によるパネルディスカッションも繰り広げられました。

まずは、宗田好史氏（京都府大准教授）の基調講演。社会に自分がどう映るのかを気にしすぎる最近の男子は草食男子と、かawaiiネーミングを拝しており「ぼくは、どうしたら良いの?」を口癖に。迷える子羊の様とか。注）あくまでこれらは大学准教授の見解であり私の意見では決してありません。心優しい青年部の男子を敵に回すつもりなど毛頭ありません!

かたや女性は、自分は自分と自覚し、社会の中で自分のすべき仕事を考えどっしりと強く(あつかましく?)居座る。まあ、家庭でも社会でもスタイルを変えないということでしょうか! 違う感覚の人間が同じ方向に向かい、並行に走るという難しい現代に生きるコツは、幸も不幸も自分の心の持ち方ひとつと覚悟し、どうにもならない壁にぶつかったら、人の意見を素直に聞き、弱い立場・日の当たらない立場に思いを馳せるしなやかな心を忘れないこと・・・かな。

2日目は8分科会に分かれての勉強会です。私は「建築物の再生活用」に参加しました。(自分の興味のある分科会を選び参加します。) テーマ内容は、福島県建築士会女性部の「もったいない りさいくるりんこ」と題し、リサイクル・アウトレット品の販売実績の報告です。中心市街地の活性化等を軸としての地域貢献活動は徳島での活動との共通点も多々あります。内容は、建て替えなどのために取り壊される建物から建材としてまだ十分使える建具や照明器具、棚板構造材などを回収し、産業廃棄物として捨てられていた物を一般の人に低価格で提供することにより、ゴミの減量化、エコの再認識、空き店舗利用によるまちづくりの活性化等の事業の効果及び課題と今後の経過についての報告は興味深いものでした。



おまけ：おすすめスポット

1. 東京都庭園美術館・国立科学博物館付属自然教育園 (目黒駅東口徒歩7分)
2. 神奈川県近代美術館葉山館 (葉山町)
3. 六本木ヒルズ屋上東京スカイデッキ



©Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture

女性部からのお知らせ

■ 県外研修旅行のご案内

「犬島で、アートを体感しよう!」

瀬戸内国際芸術祭の1会場である岡山県の犬島にアート作品を見学に行きます。精錬所、家プロジェクト見学+犬島一周クルージングつき☆

日 程：10月30日(土) 集合・出発 7:00

集合場所：沖の洲マリンターミナル

参加費：3000円程度 定 員：27名

申込締切：10月15日(金)

※お申込・お問い合わせはアトリエ・クー杉本さん (coo@coo.vs3.jp) まで。

●士会だよりー本部●

あっぱれ棟梁コンクール

建築大工技能者として高い技術を持ち、素晴らしい仕事をしつつ、後継者を育成されている「あっぱれ棟梁」を募集しています。切妻、寄棟、入母屋さまざまな住宅の応募をお待ちしております。

・問い合わせ先

徳島県木造住宅推進協議会
徳島市万代町1丁目1 徳島県県土整備部住宅課内
TEL 088-621-2593
・提出期限 平成22年10月29日（金）

●士会だよりー徳島支部●

「秋のフットサル大会」のお知らせ

日 時 平成22年10月17日（日） 9：00～
場 所 とくぎんトモニプラザ・B1
参加費 未定（500円程度）
問い合わせ先 士会事務局・西條まで
（TEL088-653-7570・FAX088-624-1710）
氏名・生年月日・住所を書いてFAXかTELで申し込んで下さい。
締切り 平成22年10月2日までに上記問い合わせ先まで
※インドア運動場ですので上靴をご持参下さい。
他支部も、どしどしご参加ください。
申し込み、まってま～す☆

●事業研修委員会だより●

四国建築ツアーⅠ「瀬戸内国際芸術祭」のご案内

現在、瀬戸内国際芸術祭が開催されています。隣県の香川での開催ということもあり徳島県建築士会としてもツアーを企画することにしました。建築士会会員外の方も参加していただけますのでお問い合わせの上お申し込みください。ツアーの詳細はまだ未定ですが定員は20人

とします。定員に達し次第締め切らさせていただきますので早めにお申し込みください。

日 時：平成22年9月25日（土）26日（日）

一泊二日の予定

場 所：瀬戸内海に浮かぶ島々

参加費：2万円程度（宿泊費、作品鑑賞パスポート、芸術祭フリー乗船券、バス代など含む）

建築士会会員以外の方は2.5万円程度

申し込み先：徳島県建築士会 事務局 tel:088-653-7570

※ 直島の「みなとや旅館」に泊まり、船便で他の島へ見学にいく予定です。



瀬戸内国際芸術祭（HPより）

編集後記

- ◆歯が痛い!!。自宅待機!!ひえー! (ノーリツ号)
- ◆直島でカレー三昧! (源三郎)
- ◆皮膚が熱い。 (ぺぺい)
- ◆酒を飲んでいないのに顔が赤い!! 夏の日ざしは強力です。 (酎西)
- ◆酒飲み過ぎで顔が青い!! (ひとはたうさぎ)

建築士会本部行事案内 平成22年

9月		10月	
1日	③二級製図講習会 (士会会議室)	1日	一日会 (士会会議室)
2日	一日会 (〃)	7日	事業研修委員 (〃)
3日	常任理事会 (〃)	10日	一級・木造建築士試験 (徳島大学工学部)
4日	④二級製図講習会 (〃)	13日	建築相談 (士会会議室)
5日	⑤ (〃)	14日	総務委員会 (〃)
8日	建築相談 (〃)	20日	建築相談 (〃)
9日	⑥二級製図講習会 (〃)	21～23	53回士会全国大会 (佐賀県)
10日	シニア会 (〃)		
12日	二級建築士試験（設計製図） (徳島大学工学部)		
15日	建築相談 (士会会議室)		
17日	中四国ブロック会議（事務局長） (岡山県)		
25～26	四国建築ツアーⅠ (瀬戸内海に浮かぶ島々)		
26日	②定期講習会 (建設センター7F)		